

## IX. 精神科 管理指導医：鈴木 由貴

### 1. 研修目標

精神科での初期研修においては、医師として必要な精神科診療に関する知識やコミュニケーションスキルを習得して頂きたいと思います。当院では精神科病床がないため、院内での研修は外来診療ならびにリエゾン診療が中心となります。高度急性期病院である当院の特色として、緩和医療や救命救急医療における自傷・自殺企図症例の診療に関して学ぶ機会が充実しています。当院は母体である大阪大学大学院・医学系研究科精神医学教室の主たる関連総合病院の1つとして、精神科専門医研修施設の役割を担っており、個々の興味関心に応じて学会/論文発表等の指導にも柔軟に対応します。精神保健指定医、精神科専門医指導医、一般病院連携（リエゾン）専門医指導医、日本臨床精神神経薬理学会専門医の資格を有した指導医が指導にあたります。

### 2. 研修方略

#### 研修内容

2年次の必修診療科目として、1ヵ月間の研修（院内研修2週間、院外研修2週間）を行います。院内研修のスケジュールは下記の通りです。

	朝	午前	午後	夕方
月		初診予診／陪席	リエゾン初診 緩和ケアチーム回診	
火		初診予診／陪席	リエゾン初診	リエゾンチームカンファレンス／回診
水	緩和ケアチーム カンファレンス	初診予診／陪席	リエゾン初診 緩和ケアチーム回診	
木		初診予診／陪席	リエゾン初診 レクチャー	
金		初診予診／陪席	リエゾン初診 レクチャー	

午前中は初診の予診をとった後、初診担当医の初診に陪席して頂きます。精神科診察におけるコミュニケーションスキルや精神症状の評価方法、精神疾患における鑑別診断、適切な薬物療法や精神療法を含む包括的アプローチなどについて学んで頂きます。

午後はリエゾン初診の症例に関して情報収集した後、リエゾン初診担当医と共に身体科の病棟へ往診して頂きます。身体科に入院している患者さんの精神症状への対応方法、他職種との連携におけるコミュニケーションスキルを学んで頂きます。

火曜の午後のリエゾンチームカンファレンスにおいてリエゾン症例のプレゼンテーションを行い、回診での評価を含めて治療方針の検討を行います。また、適宜症例検討、抄読会、学会発表の予演会等を行います。

水曜の朝は緩和ケアチームのカンファレンス、月曜と水曜の午後は緩和ケアチームの回診に参加して頂き、緩和医療について学んでいただきます。

各レクチャーは一般診療において必要な精神科領域の知識を網羅する内容で構成されています。身体科でも遭遇する頻度の高い精神症状の鑑別、認知症やせん妄の病態と介入方法、抗精神病薬、抗不安薬、睡眠薬など身体科でも用いる頻度の高い向精神薬の薬理作用や使い分けについて学んで頂きます。

院外研修では、大阪大学大学院・医学系研究科精神医学教室の関連病院である精神科病院において、主要な精神疾患（統合失調症、双極性障害、うつ病など）の病態や入院治療に関して学んで頂きます。

### 3. 行動目標

#### (1) 研修目標

- コミュニケーションスキルを身につける  
一般初診での予診/陪席により患者/患者家族とのコミュニケーションスキルを学ぶ  
リエゾン診療における多職種との連携においてコミュニケーションスキルを養う
- 精神疾患・認知症・せん妄を理解する  
身体科でも遭遇する頻度の高い精神症状の評価方法、認知症やせん妄の病態と介入方法を学ぶ
- 向精神薬について理解する  
抗精神病薬、抗不安薬、睡眠薬など身体科でも用いる頻度の高い向精神薬の薬理作用や使い分けについて学ぶ

#### 4. 評価

- 1) 研修医は、ローテーション終了時に EPOC を用いて自己評価を行う。
- 2) ローテーション終了時に、指導医及び看護師長（または相当職の看護師）が、EPOC を用いて「研修医評価票 I、II、III」により研修医を評価する。